

A-4

「私は上手に転ぶから」

意思の尊重

パーキンソン病

自立支援

動きたい気持ちを尊重したケア

広島市安佐南区

特別養護老人ホーム和楽荘

ひらき ゆうこ

小泉 勝

介護福祉士 平木 優子

FAX 082-848-4579

施設（事業所）  
またはサービスの  
概要

豊かな自然に囲まれ、ご利用者様、地域の方々に愛される施設。「その人らしい人生の継続の支援ができるよう、ゆっくり、優しく、穏やかに寄り添っていきます」という特養基本指針のもと、日々の業務に取り組んでいる。

## I. &lt;取り組み課題&gt;

対象である A 様（80 歳）は、50 歳頃より体調不良続き、様々な病院を受診。平成 14 年にパーキンソン病の診断あり。以後は専門医の指示を受け、内服治療を続けていた。その後認知症状の悪化、転倒を繰り返し、自宅に対応困難のため令和 4 年 8 月に和楽荘入居となる。

入居後も転倒を繰り返す、付き添い対応では他業務が回らない等課題多い中、A 様より「私は上手に転ぶから。動かないと動けなくなるの」という思いを聞き、A 様がなるべく安全に、自由に動けるようにするためには、どうすればよいか、多職種で取り組むこととした。

## II. &lt;具体的な取り組み&gt;

&lt;転倒してもけがを防ぐために&gt;

- ・クッション付帽子、膝、腰サポーター使用
- ・居室のベッドを畳に変更させていただく
- ・症状が重く、転倒リスクが高いと判断したときは付き添いを行う

比較的自由に動けるようになったが、令和 4 年 11 月ごろより、パーキンソン症状の悪化、他利用者様、職員に攻撃的になれることが増えてきた。本人様もしんどそうな様子あり、A 様が苦痛なく、穏やかに過ごされるにはどうすればよいか、多職種で検討する。

&lt;苦痛なく、穏やかに過ごしていただくために&gt;

パーキンソン病について調べなおすと、薬の量が足りないとウェアリングオフ現象、多すぎると副作用でジスキネジアの症状が出ることを知り、服薬の調整の重要性を再認識する。

毎月の通院日に作成した記録表、統計の結果をお手紙で伝え、先生より現状を踏まえて、指示をいただくこととした。

## III. &lt;活動の成果と評価&gt;

- ・A 様の心に寄り添い、「動かないと動けなくなる」という本当の思いを知ることで、力になりたいと職員の心境に変化があり、信頼関係が築けた
- ・A 様が比較的安全に、自由に動けるようになった
- ・病気の理解を深め記録表等を用いた報告を行うことで、より密接な多職種の連携が可能となった
- ・症状別の統計結果より、ジスキネジアの症状が減少し、穏やかな時間が増えた
- ・家族様より「和楽荘でみていただいて良かった」というお言葉をいただけた

## IV. &lt;今後の課題&gt;

特養に入居する利用者様は要介護 3 以上となり、重度化、様々な病気を患った方が増えている。現状に満足せず利用者様の声を聴き、より有意義のある生活を過ごしていただくためにはどうすれば良いか、考え続けることで、より質の高いケアを提供できると考える。

## V. &lt;参考資料など&gt;

パーキンソン病診療ガイドライン 2018

日本神経学会

<https://yakugaku-gokaku.com/post-267/><https://pd-online.jp/record/record01.html>[https://www.neurology-jp.org/gyidelinem/parkinson\\_2018.html](https://www.neurology-jp.org/gyidelinem/parkinson_2018.html)